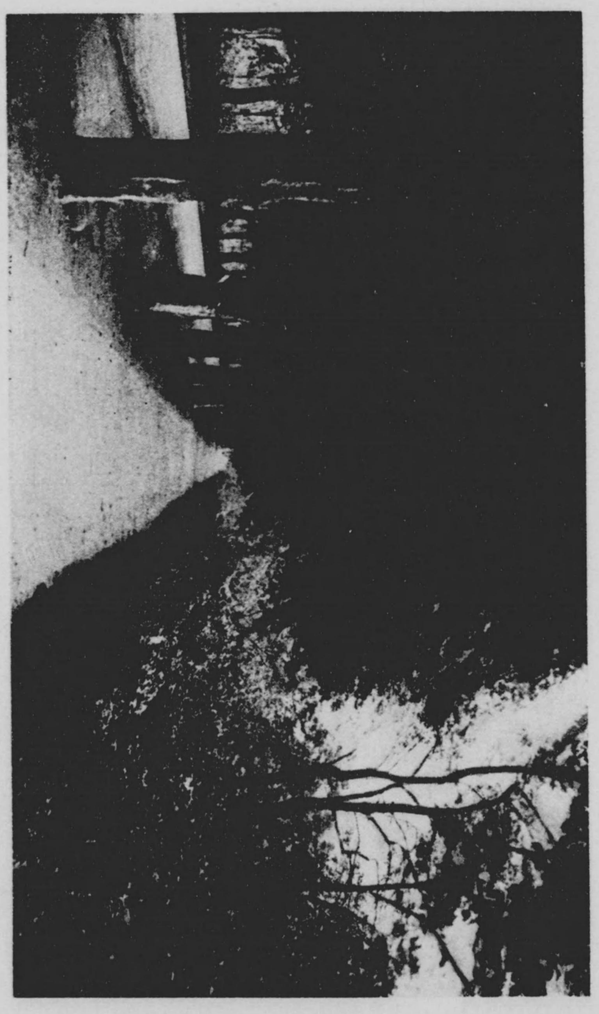
をマドモァゼル、ボナァルとする。

六日　荷物をマルセイユへ出すので朝から大さわぎ、三井物産の頭本さんの小父様がお手傳に來て下さる。全部MM汽船會社へ渡した。何んだか明日にもかへれそうで嬉しい様なさみしい様な變な氣持……午後明日の旅行の支度をする。

十一、オリムピックへ!!　和蘭へ

七日　朝十一時ガル、デュ、ノールからオランダに行く。七時頃アムステルダムに着く。岡田さんの小父様、井川さん、服部さんの小父様方がお迎ひに來て下すつた。すぐ又四十分位汽車に乘つて郊外のヒルヴェルスムについた。自動車に乘る事十分位で



〔町たつあの技競術馬クツピンリオ〕ムスルェヴルヒ蘭和　〔圖四十四第〕

此度オリムピックに出られる選手の方々の居らつしやるボーンブルグのカーター、バンションに落付いた。皆様と一緒に食事をする。おいしかつた。

八日　大雨後晴。ヒルヴェルスムは靜かな氣持のよい田舍町です。牧場のすみ〳〵には小さなムランがあつて便を足して居ます。午後各國選手のデキタッションドレッサージュをフットボールの競技場で見る。青々とした芝生に各國の見事なお馬のそろつたのを見るのはほんとうに勇ましいものでした。馬の事は少しもわかりませんが日本のお馬はアメリカや歐洲のにくらべるとまだ〳〵劣つて居る樣に見えます。日本の選手方がお出になつた時は思はず胸がどき〳〵しました。

九日　晴、朝町を見物する。少さな町だ。繪葉書を求めてお友達やお兄様に出す。小供等がサボーと云ふ木の靴をはいて居るのをみた。夜城戸少佐と一緒に外人のお茶に招かれた。折あしくご主人はお留守でしたが奥様がいろ〳〵おもてなし下さつた。私等の和服を大變ほめて下さいました。

十日　晴、朝五時半頃霧の中をパパはけふの競技を見に御出かけになりました。城戸少佐がヒルヴェルスムの郊外のクロスカンツリー、レースに何十といふ障碍を飛びこえて全速力で走つて早く着くのがよいといふ競技にお加はりになつたので私も思はず早起きをしました。遊佐さんの小父様はよくこの競技でけがをする事があるからと大變心配してゐらつしやいました。私も

等共小るていはをーボサ蘭和　〔圖五十四第〕

どうか御無事に早くお着になればよいと小さい胸をいためて居りました。九時頃馬やから無事お着のお電話があつた時は飛び立つほど嬉しふございました。昨日のドレッサージュで十七番であつた城戸さんは今日のクロスカンツリーで五番におなりになつた。バンザーイ。バンションの女中がアンチンカンプンの和蘭語でべら〳〵しやべりましたが何が何だか私には少しもわかりませんでした。多分城戸さんの好成績をほめてくれたのでせう。それに引かへ同宿のブルガリヤの將校のお一人はお氣の毒な事をしました。馬からお落ちになつて大變なおけがをなされたさうです。午後遊佐さんの競技を見ました。遊佐の小父様が一番うまいと思ひました。

十一日　朝、岡田少佐のを見ようと思つてつい寝坊して見そこなつて殘念でした。十二時九分でアムステルダムに行く。すぐスタディアムに行つて城戸少佐の障碍競技を見る。前軀で二度門を倒したので惜しい事に八點減は殘念でした。夕方マドモアゼル、ドフをスタスィヨンへお迎へに行く。御一緒にヒルヴェルスムに歸る。

十二日　朝、マドモアゼル、ドフとブッチボアを散歩する。共にひる頃の汽車でまたアムステルダムに行く。吉田さんの大障碍飛越競技を見る。時々スタディアムに備付けてある擴聲機でオリムピック各競技の結果を知らせる。一等に入つた國の國旗は空高くかゝげられる。一同起立して樂隊につれて國歌を歌ふ。

〔第四十六圖〕　同宿のブルガリア選手セモツフ大尉さんと

水泳で日本國旗の上つた時は飛立つ程嬉しかつた。馬術でもあがればどんなに嬉しいだらう。夕ヒルヴェルスムへ歸る。

十三日　上天氣一日散歩やら買物をする。

十四日　午後ヒルヴェルスム市の催しのコンクールを見る。オリムピックのより高い障碍を吉田さんが美事に飛越なさつた。夜同宿のブルガリア選手の方々とお別れの會をした。

十五日　朝十時半ヒルヴェルスムを出てアムステルダムに汽車の時間を待つ間市内を歩いた。まがつた家の多い事、もし日本の様に地震國だつたらすぐ倒れてしまふでせう。ピザの斜塔よりもひどい家がいくらもある。

十二時二十分發で巴里に七時に着いた。

十二、五度び巴里へかへる

十六日やつばりパリは一番いゝ。これで旅行も終つて重荷を下した。あと十日ばかりでいよ〳〵日本へ歸れるのだ。そう思ふと居ても立つてもゐられない。荷ごしらへをする。お世話になつた方々にごあいさつに行つたり。晩さんにおよびしたり二三日は目のまはる程いそがしい。お父樣は遊佐さんの小父樣と今度求めた馬を日本へ送るのを見にゐらつしやつた。また犬を一つがひお買ひになつた。

二十日　明日はいよ〳〵このなつかしいパリーとお別れするのかと思ふと何だかお名殘惜しい樣な氣がする長くお世話にな

つた佛語の先生もお別れだ。何だか淋しい氣がする。御一緒に夕飯を頂いて今までの御禮を申し上げて『サヨナラ』と申し上げた。先生の目には銀の露がかゞやいて居た。が、一生懸命笑顏をつくつて美千代をアムブラセして下すつた。お互に何度も何度もふり返り〳〵エトワルで御別れした。『あゝなつかしい巴里!!　永遠にわすれる事の出來ない巴里！　さようなら……

十三、巴里よ!!　さらば、佛蘭西よ!!　アデュー

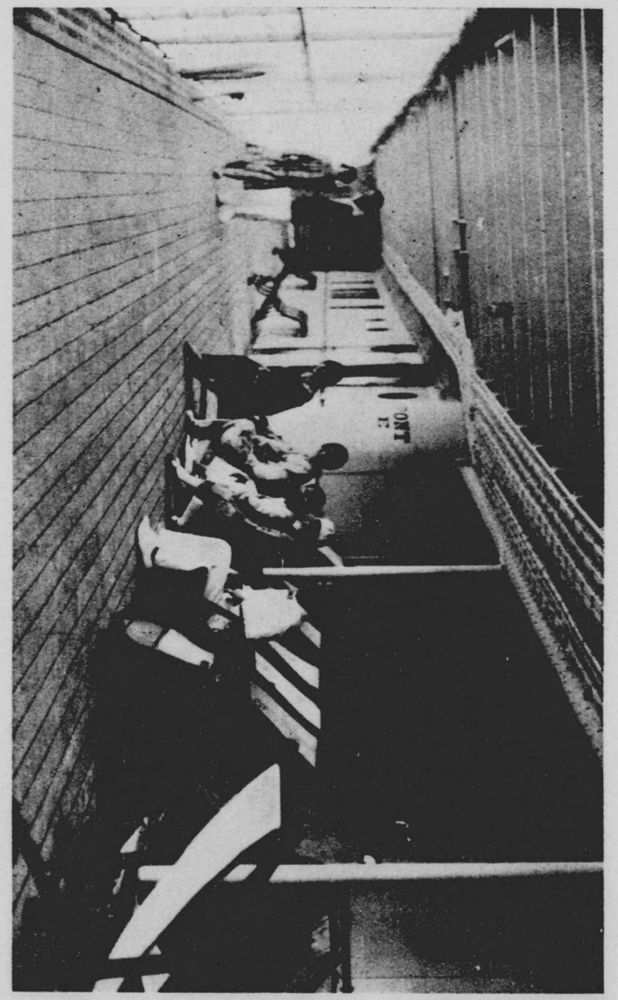
二十一日　朝十時ガル、ド、リヨン發でマルセイユに行く。お世話になつた小父樣方がお送り下さる。永持さん、遊佐さん、城戸さん、中村さんの小父樣方が來て下さつた。犬をつれて乘る。夜十

一時マルセイユ着。ホテル、ノアイユに入る。井川さんもご一緒に。

二十二日　晴天ですが大風。ノートルダム寺院や其の他を見物する。毎日「あけぼの」へ行つて日本料理を頂く。

二十三日　町を見物したり。大きなマガザンへ行つた。が、ちつとも落着かない。いよ〳〵明日は待ちにまつた日が來た。嬉しくてねつかれない。

二十四日　上天氣で海は靜かです。私共の乘つたスファンクスは四時出船しました。園田さん、山本さんがお送り下すつた。横濱を出る時は涙で皆樣と御別れしたが今はたゞ嬉しさでいつぱいです。船はしづかに港を離れて波一つ立たない海を行く。夕飯後デッキを散歩する。金色のお月樣が水にうつつて何とも



〔圖七十四第〕　でキツデのスクシアフス船のり歸

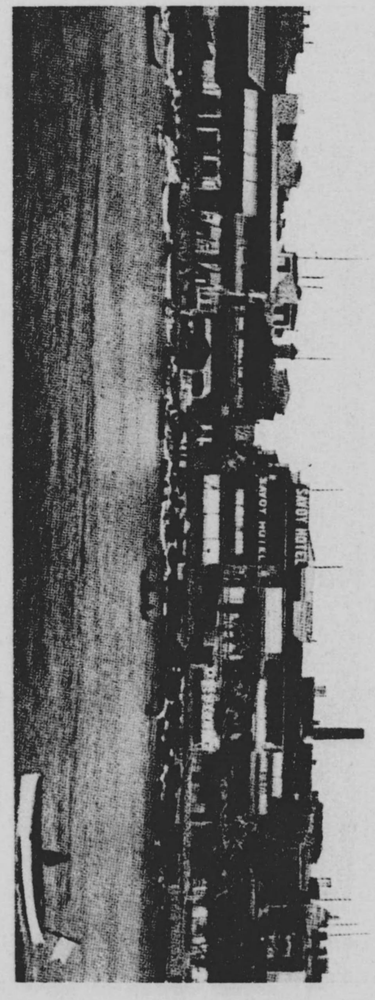
いへぬ美しさ。しばらく眺めてお兄様の事、御家の事など思ひ出してねに行つた。四十日餘もお船にねとまりしなければと思ふと少しがつかりする。

二十五日　朝起きてデッキへ出て見ると遠くに小さい島々がかすんで見えた。『あれがナポレオンが生れたコルシカ島だらう』とパパが仰つた。今はたゞ小さい白いお城が淋しくのこつて居るさうです。海は油を流した様に靜か。船はボートサイドに向つて走つて居ます。

ボートサイドへ着く前々日から海はすこしうねり出した。大分よつた人があるとみえて食堂もデッキも淋しい。パパはとても今度船におつよいので驚いた。

二十九日　朝六時半ポートサイドへ着く。すぐ馬車で町を見物する。エヂプトの女の人の顔をおほつた黒づくめの服裝はめづらしかつた。十一時半船にかへる。いろ〳〵の物賣のうるさいのに驚く。十二時半出帆。スエズ運河を通る。狹い運河の兩側はアラビアとアフリカの廣い砂漠つゞき……所々に土人が二三人づゝ働いて居る。暑さの爲めに砂が空中に上つて居る樣にみえる。らくだにのつた人が二三人あるいてゆく。たまに小さい家が二三軒見えるだけ。こんな處に住んで居る人はどんなでせう！

三十日　紅海の暑いといふ事は聞いて居ましたがまさかこんなではないと思ひました。少しでも風のある時は堪えられます



（トアヂエ）ドイツ　トーボ　〔圖六十四第〕

〔第四十九圖〕　エヂプトの婦人

がさもないときはたまりません。汗かきの私は日に三四度はきかへなければなりません。ベットの金具でも何でもさわるものがみなあつたかでよくねる事も出來ません。閉口〳〵

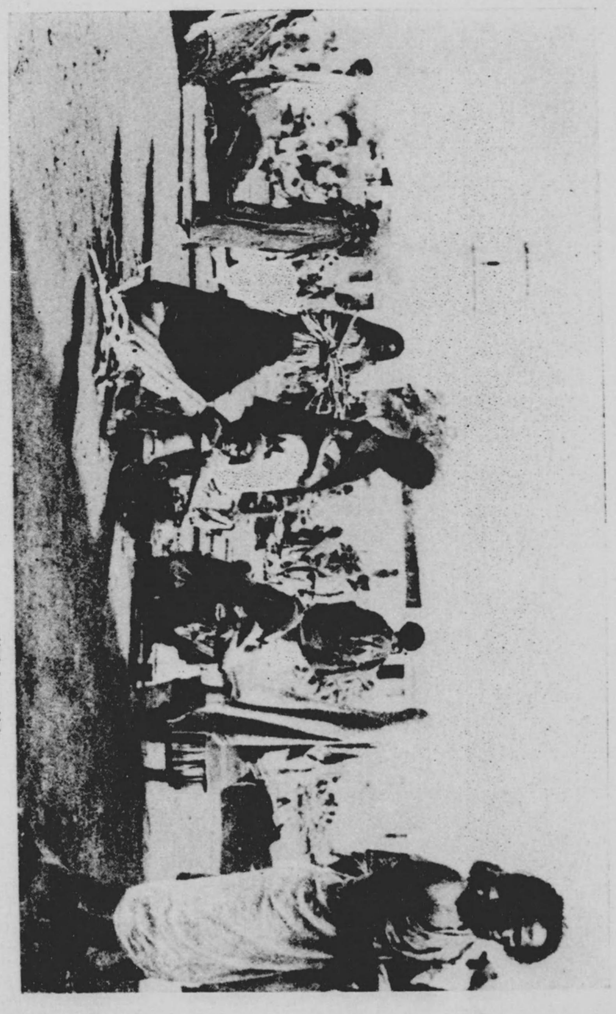
二日　夜おそくアフリカのディブティに着く。蚊のすねの様な細い足をした目ばかりギョロつかせた土人が入つて來て氣味が惡かつた。おし賣をするので困つた。

三日　朝出帆。モンスーンとかで港を出てから三日ばかりゆれ通しましたがパパもママも誰れもよひませんでした。フランスやイギリスやアメリカの四五人のお友達と毎日遊び暮した。

九日　夜おそくコロンボに着いたので上陸出來なかつた。翌朝早く上陸して一まわりして印度人やヒンドゥの街

を見た。いろ〳〵の面白い風俗を見る事が出來た。ハシームといふ寶石やのご主人はとても日本語がペラ〳〵で今度御大典の御祝物をもつて日本へ行くと申して居りました。とても商ひが上手で『お金を今お拂ひにならなくとも日本へ歸つてからでよろしい』なんて色々のものを見せられるのでパパもお兄さまや私のやらのお土産ものを澤山お買ひになりました。海岸にある大きなガルファス、ホテルに行つて何より先にお風呂に入りたいと行つた所が時間外でお湯が出ずがつかりして水風呂に入る。有名なライス、カレーはおいしかつた。マンゴスティンを買つて四時半船にかへる。六時出帆する。

十日、十一日も海が荒れて大分閉口した人も多かつた。けれ



〔圖十五第〕 イテブイデ

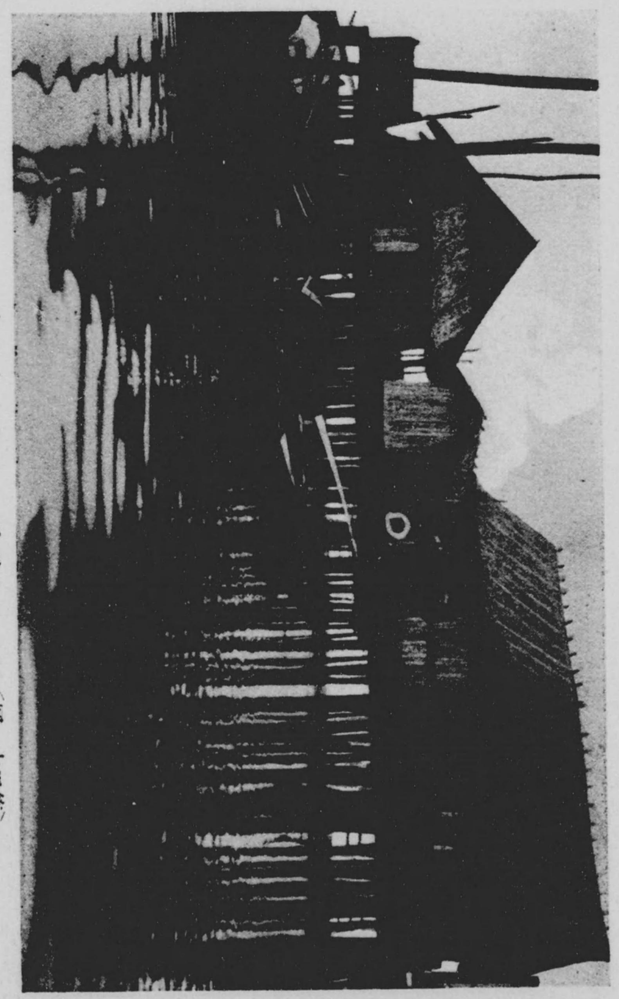
ども私達誰れもよはない。美千代は相變らずいそがしい人でお友達と遊びまはつて居る。

十三日　海は少し靜かになる。遊びつかれると指折りかぞへて日本へつく日を待つて居る。夕スマトラ島が遠くに見え始めた。

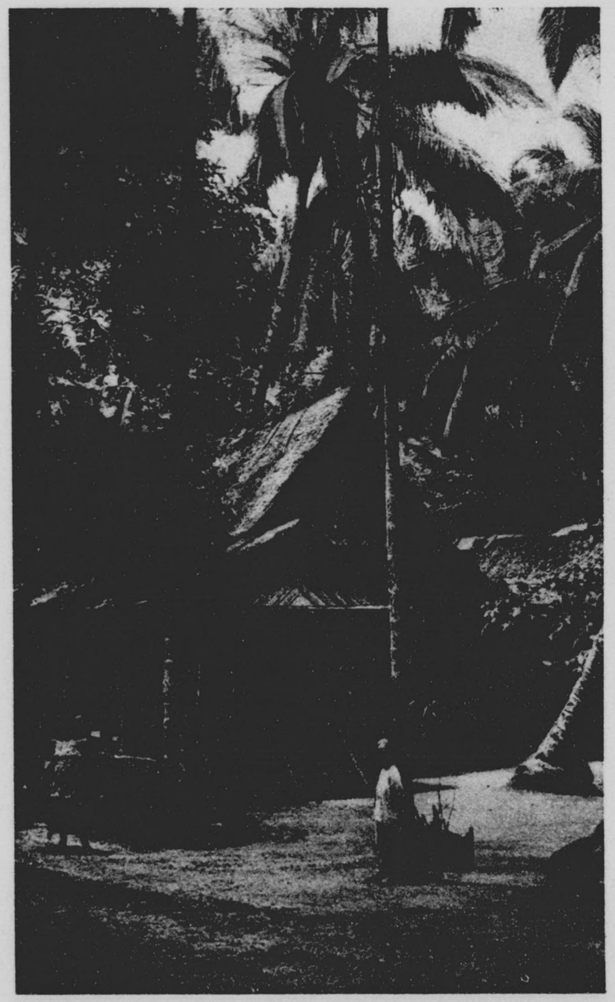
十四日　日本から皆々無事といふ電報がきたのでよろこぶ。こちらからも打つ。

十五日　晴天。朝デッキへ出るとスマトラの島々が見える。毎日水と空をにらめつこばかりして居る私には島一つでも嬉しい。午後二時シンガポールに着く。土をふむ事の出來るうれしさ。いそいで支度して上陸する。三井物産からお父樣のお友達

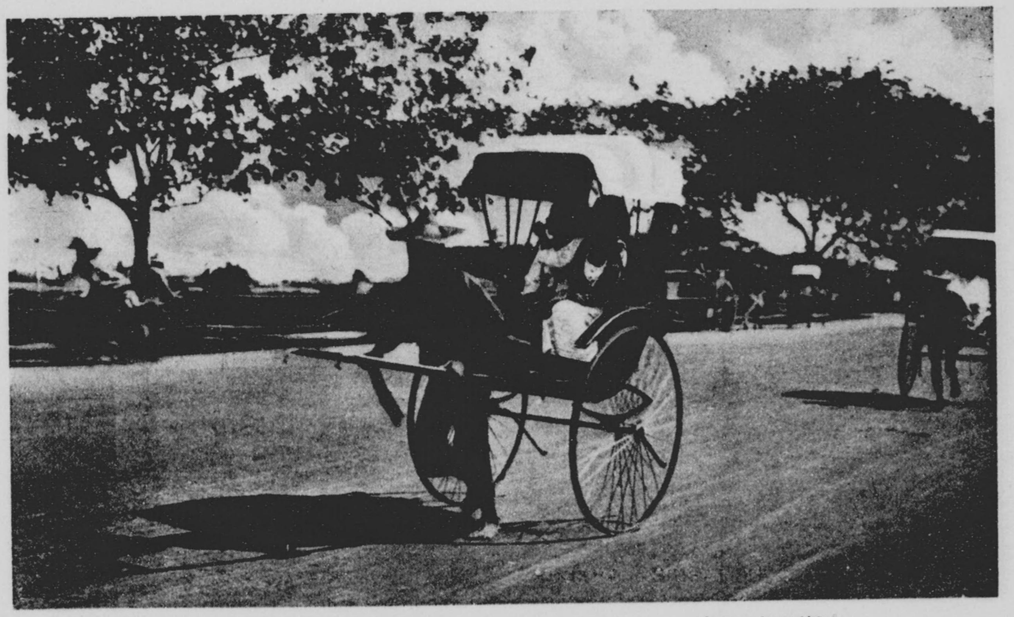
の方がお迎へに來てゝ下すつた。ご一緒に日本人街の本屋で雜誌を買つて頂いたうれしさ。お父樣も久しぶりで八月中の日本の新聞やら雜誌をお求めになつた。すぐ自動車で植物園を見る。野生の猿が澤山出て來てバナヽをやると嬉んで食べる。あちこちの樹から木へ飛ぶはなれ業。なか〳〵面白い。それからジョホール王國を見物し回教の寺院や國王のお墓におまゐりした。又水道の貯水池を見る。私は生れて初めて、諸外國に賣出すといふ猛獸屋を見た。せまい處におそろしい獅子や虎やひようがうなつて居てとてもこわかつた。突然後の方でひつぱるものがありますのでふりかへると猿なのでびつくりして飛び退くと長さ一丈もあるふとい大蛇が箱の中に居たので三度びつくり、そ



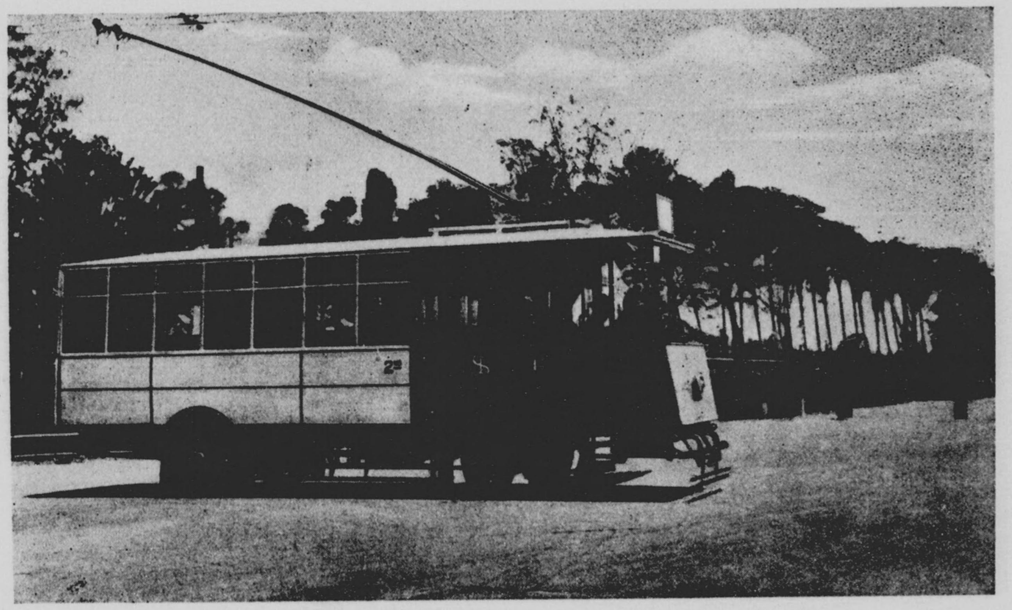
家の人士のルーポガンシ　〔圖一十五第〕



〔第五十二圖〕　シンガポール風俗



〔第五十三圖〕　シンガポール郊外



〔第五十四圖〕　シンガポールの無軌道電車

こ〳〵に外へ出てしまひました。挪子の生ひ茂る山道をドライヴして三井支店長のお宅に着いたのはもうたそがれ近くでした。私共のために御用意下すつた日本料理……久しぶりなので何より嬉しく思はず頂き過しました。伺へば支店長の高橋さんはお父様の中學時代の一番若い先生でゐらつしたさうです。思はぬ處での御面會にお話はそれからそれへと時の移るのを忘れました。たゞ一つ氣味の惡るかつたのは天井にやもりの澤山居る事でした。『やもりと蚊を氣にしたらこゝには住めませんよ』と先生はおつしやつた。厚く御禮を申上げて歸船したのは十一時近くだつたでせう。パパはあとへお一人で殘つて先生といつまでも御話なすつたようです。デッキでしばらく涼んでからね

る。

十六日　朝六時出帆。サイゴンに向ふ。海靜か。風があるのであまり暑くない。お友達と遊ぶ。

十七日　前日と同じ

十八日　午前二時港の川口に着く。靜かに河を遡ること四時間で六時サイゴンに着く。深い河と見えて大船が澤山兩岸に着いて居た。かねくきたないあつい所と聞いて居ましたがその通り河はまるでドブドロ。勞働者は平氣でその川で水をあびて居る。コレラやペストにかゝるも道理だと思つた。街を通るとこの間こゝからペストが出たなんてしめ切つた家があつた。井川さんの小父樣と皆で三井物產の所長さんの森田さんの奥樣にお願ひしてお風呂に入れて頂いた。からだがかるくなつた樣。久しぶりでおはぎをお馳走になつておいしかつた。たゞ町をぐるつとまはつて船にかへつた。こんなつまらぬ處に四晩も停泊はなさけない。石炭をつむので船のきたない事。蚊が居てねむられない。

十九日　中々あつい。一日船で遊ぶ。午後九州の八幡製鐵所におつとめの影山さんの小父樣と井川さんの小父樣と一所にみんなでドライヴする。蚊やり線香やお菓子など買うてかへる。

二十日　目さむると大雨、大風。止んでは降り、降つては止む。一日お友達と折紙をする。皆めづらしがつて私にもくとよつてくる。紙船もこしらへて流す。皆々面白がる。外國人には餘

程めづらしいと見える。雨で蚊もうたれたのかねむりを妨げられる程でもなかつた。暑さも少しはうすらいだ。

二十一日　ひどい雨。一日つまらなく暮す。あと十二日でなつかしい生れ故郷へ着くと思ふと嬉しくていやな事もがまんする。いよ〳〵明日の朝出帆　有難い!!

二十二日　上天氣。朝五時出帆海はおだやか。お父様はマルセイユ出帆以來毎日二匹の犬のお世話をなさるので大變。暑い所も無事に通つて來たとほつとして喜んでゐらつしやる。犬にごはんをやるギャルソンが雌犬の事をマドモァゼルといつて居るのがおかしくて仕方がない。港へ着く度に上陸させてはなしておやりになると嬉しがつてかけ廻つて居る。香港へ着くまで

デッキで運動會があつた。いろ〳〵の面白いゲームもあつた。思ひつきの假裝もあつた。

二十五日　朝七時香港へ着く。九時三井物産のお迎への方が御出になる。井川さん影山さんと御一緒にランチで上陸する。すぐ社長さんの井上さんに御目にかゝつてから自動車で島めぐりをした。小きれいなハイカラなホテルでお茶をのむ。岬の景色のよいこと。大きな箱庭の樣。すんだ空。美しい水の色。……少しも車がガタビシしない道路はのつて居て實に氣持がよい。ヴィクトリアピークに上つて香港を一目に見る。遂一ヶ月前に日本の第一艦隊が入港した時は實に勇ましいものだつたさうです。千歳館で日本風呂に入つて浴衣がけでスキヤキを頂いたの

で何だかもう東京へかへつた様な氣がして船へかへるのが惜しくなつた。午後五時出帆。船の進むにつれて海はだん〳〵おこり出した。陽氣も下つてはだ寒くなつて來た。さすがの大船もまるで木の葉の様。デッキは眞直にはあるかれない。よつぱらひの様。でもパパと美千代は少しもよはない。お友達は殆んど西ゴンで下りてしまつて上海まではお友達としては一人のイギリス人の女の子が殘つて居るきり。一緒に遊ぶ。

二十六日　お天氣はよいが風がひどく海はうねつて居る。船にまけない様一生懸命運動する。午後少しおち付いて來ましたがまだなか〳〵ゆれて居る。もう一週間ばかりだ。どんなにゆれてもいゝ。パパも今度は大元氣。

二十七日　海は午後全く靜かとなる。

二十八日　上天氣。一時半上海に着く。横濱出帆の折御同船の渡邊さんやママのお友達の正金支店長橋爪さんの奥樣がお迎へに出て下さる。物産からも來て下さる。影山さん井川さんと皆樣で桃太郎に行つて入浴。また日本食を頂く。こゝで日本の方々に多く會ひ又日本人の商店の多いのを見て嬉しくなつた。

二十九日　上天氣。お父樣はお一人で買物にお出かけ。朝、橋爪さんの奥樣がお迎ひに來て下さつて御一緒にママとお宅に伺つていろ〳〵のお話に時の移るのを忘れた。公園やら方々へ御案内下すつた。正金の銀で一ばいになつて居るお庫も拜見した。馬蹄銀の見本を頂いた。途中奥樣は馭者に『馬夫(マフ)オソ〳〵』と

仰つしやる。馬車はかなり早く走つて居る。度々『オソ〳〵』をおくり返しになる。これはもつとゆつくり行けといふ意味を仰つたのだと思つてゐた。が、一向ゆるくならないで益々早く走る。後で聞けば『早く〳〵』といふ事ださうで大笑ひ。買物を一緒にして頂いて新月といふ日本料理やまでお送り下すつた。こゝへ三井の西田さん渡邊さんとパパと御出でになつて一緒にお晝を頂く。午後競馬へ行く。支那馬は小さいけれど中々早い。夕、六三園に行く。きれいなしやれたお家。早速お風呂に飛込む。日本のお座敷でゆつくりご飯を頂いた。お椽側に出て見ると美しいお月様はお庭一面を照らしてゐる。私はあかず眺めて居た。今頃東京でもお兄様はこの月をごらんになつてもう幾つねると美千代が歸つて來るなんてうれしさなお顏をして指折かぞへて待つて居らつしやるに違ひない。早くその日がくればいゝなあ……もう船に歸るのもいやになつちやつた。

三十日　一日早く出帆すると聞いてキャッと云つて飛び上つた。コムミッシエルにみられて笑はれた。橘爪さんの奥樣やお母樣が御出で下すつた。上海の栗を下すつた。本場だけあつておいしい。十一時出帆。今朝六三園からとゞいたお辨當をデッキで食べる。船でどこかへピクニックに行つた樣。とてもおいしい。井川さんの小父樣は大きなマホービンのおかん德利をかゝへて嬉しそうにのんでゐらつしやる。そこへフランス人の日

本料理通の奥様が御見えになる。おさかづきを上ると『メルシー』と仰つて二三杯めし上る。お料理も食べたいと仰しやる。一折お室へもつてつて上る。およろこびになつてムッシューや外の方にもおわけになつたそうです。三時半船は揚子江で止まる。夜の食堂はとても淋しい。あちこちのテーブルにバラ〳〵……みんな大抵上海で降りてしまつたのです。

十月一日　氣持のよい秋晴。空の色。水の色のきれいな事!!もう嬉しくて勉強も出來ない。お友達も皆降りてしまつて遊ぶ事も來ない。頂いた栗をデッキに居らつしやる皆樣と頂いた。お荷物をこしらへる。バーのギャルソンはよく美千代を可愛がつていろ〳〵のものをくれる。私が行くといつもマルキタ〳〵

ときつと歌をうたふ。マルキタといふ歌があるのですつて。泣いても笑つてもあと二日!!!　嬉しくてねられなかつた。

（二日三日）日本晴。靜かなおだやかな日。見るものきくもの嬉しくて仕方がない。やつぱり日本の景色が一番いゝ。殊に瀨戸內海の景色といつたら世界一といふてもはづかしくないと思ひます。それは外國にだつてもつと〳〵大きなもつと立派な處が澤山あります。けれど美千代はやつぱりなつかしい故郷が一番好きです。自然の美。それはなんといつても世界一でせう。工業、機械、道路其外いろ〳〵の点でまけて居つても私共が一生懸命勉強してえらい人になつてお國にお盡ししたらもつと〳〵立派な國となつて諸外國にまけない樣になるでせう。船は鏡の

様な水の上を走つて居ます。……なつかしい神戸の港をさして……小さな胸はその事で一ぱいになつてゐます。遠くからでも目に付く様にと美千代は眞赤なペレーを被つて横濱を出る時お兄様のこしらへて下すつた旗を持つてデッキの手すりによりかゝつて港に入るのを待つて居た。その中に船は止つて檢疫が始まつた。空は少し曇つて今にも泣き出しさう。やがて船は動き出した。つくのが待ちどほしい。港に近づけば近づくほど船はなほのそのそ行く。じれつたいたらありあしない。遠くに人の山が見える。ぼうつとして誰が誰だかわからない。時々學帽をふつたりムッシユワールをふつたりするのがたぶんお兄様でせう。美千代も一生懸命旗とヴェレを代る〳〵ふる。お兄さまア!!……

美千代!!　お兄様さまの聲!!　漸く着いた。棧橋が渡される。お兄様はどん〳〵上つて居らしやる。船長さん、コムミッシエール、お世話になつた皆様に厚くお禮を申し上げてお別れした。澤山の方々が迎へて下すつた。無事に歸つたのをよろこんで下すつた美千代もほんとに嬉しかつた。午後伯母様お兄様と御一緒に京都のおなじみの旅館で休んで夜の寢臺で東京へ歸つた。

四日　朝……東京!!　東京!!　お友達や大勢の方々がお迎へ下すつた。まだ船に乘つて居る様にからだがゆれて居る。なつかしいお家へ歸つた。すぐ美千代のお部屋へとんでゆく。一日中お客様がお出になる。ほつとして美千代のほんとのお家でぐ

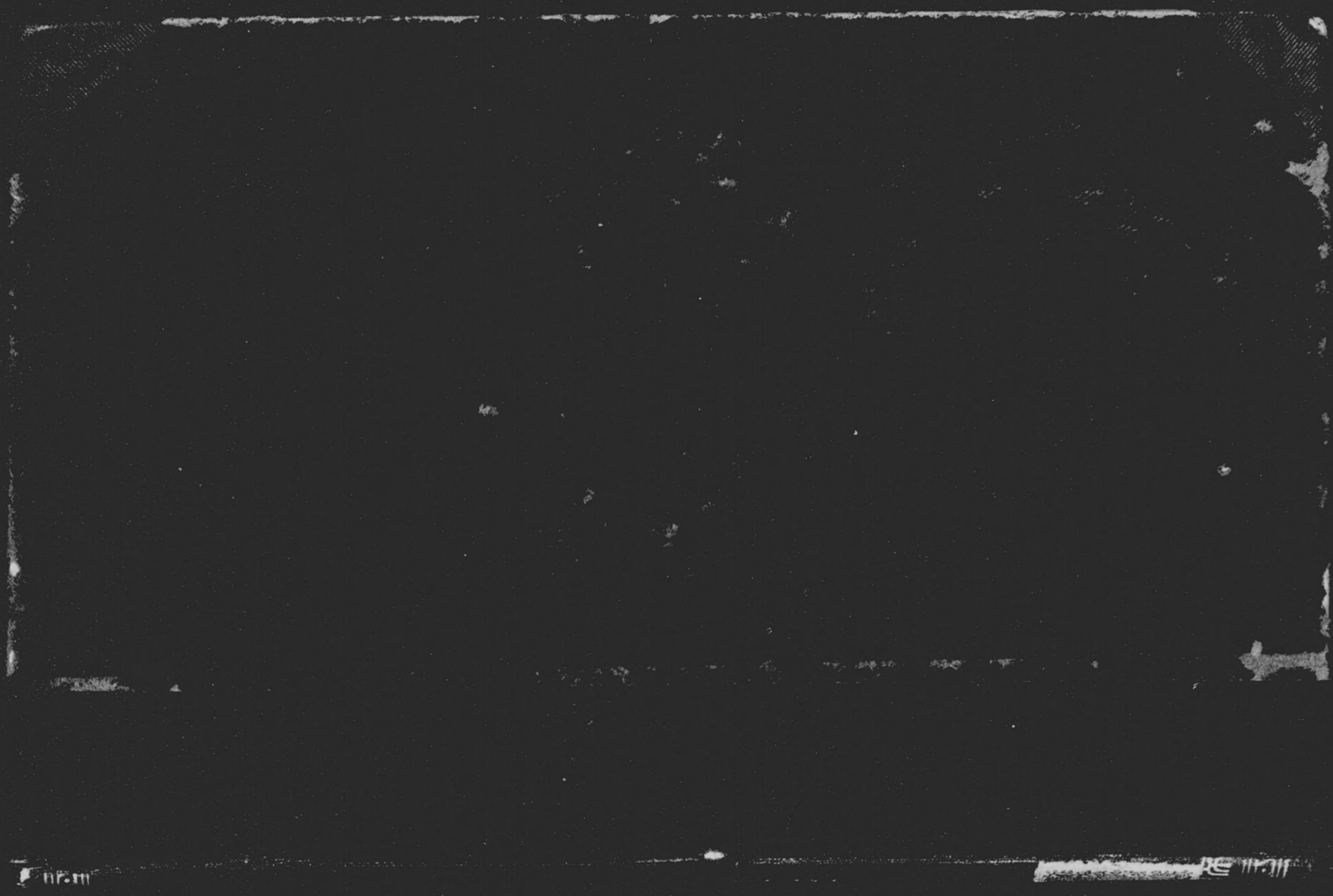
つすりねました。長い〳〵旅もとう〳〵終りました。

昭和五年六月五日印刷
昭和五年六月十日發行

〔非賣品〕

不許復製

著作者　牧田美千代　東京市麹町區内山下町一丁目一番地
發行兼印刷者　澤田義人　東京市麹町區内山下町一丁目一番地
印刷所　新生堂

東京市麹町區内山下町一丁目一番地
發行所　新生堂出版部

578
280